

## だいち (ALOS) 衛星搭載合成開口レーダー PALSAR の力

## The Potential of ALOS PALSAR

# 飛田 幹男 [1]; 島田 政信 [2]; 藤原 智 [1]

# Mikio Tobita[1]; Masanobu Shimada[2]; Satoshi Fujiwara[1]

[1] 国土地理院; [2] なし

[1] GSI; [2] EORC, JAXA

2006年1月24日午前10時33分、種子島宇宙センターからH-IIAロケットによって、陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)が打上げられた。ALOS(エイロス)は、地図作成、地域観測、災害状況把握、資源探査等を目的としている。打上げ後4日間に、太陽電池パドルの展開、データ中継衛星通信用アンテナの展開、PALSARアンテナの展開を無事完了した。その後、初期機能確認(3ヶ月間)、初期校正運用(5ヶ月間)を経て、平成18年9月に定常運用に移行の予定である。

ALOSには、Lバンドの合成開口レーダー(SAR)センサーPALSARが搭載されている。1992年~1998年にJERS-1衛星が同様のLバンドSARで地表面の変化等に関する貴重な情報を提供した。ALOSはJERS-1に比較して、軌道制御、軌道情報精度、オフナディア角(観測角)可変、高分解能、高い干渉度他、いくつもの優れた特徴を持っており、陸域観測を通して様々な新しい知見をもたらしてくれることが期待される。